

平成31年度 教養教育科目 シラバス			
科目名	生活と経済 Economics	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松葉 敬文	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	生活に関わる様々な経済の仕組みを理解し、基礎的な経済学の修得を目指すことにより、経済問題について自ら考えることができるようになる。これにより学生が自身が社会に貢献することの意義を知り、また自らのライフ・イベントに付随する経済問題を理解しその対処を考え、より良い選択が行えるようになることを目的とする。「生活と経済」を学ぶことにより、社会に貢献する意義を学習し、また自らの選択を見直しつつ将来にわたる経済的な設計を考え、対処できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	経済の問題と聞くと難しいと身構えてしまうことが多い。しかし、日々の生活においてお金を支払うことける支出を出費を行うこと、例えば「おやつ」を食べるどうか、そしてどんな「おやつ」を食べるのかという問題も経済問題の一種である。また、自身が収入の獲得する様々な手法（働いて給与を得る、事業を運営する、あるいは利子や家賃収入を得るなど）や、現金で買うかクレジットカードを利用するかについても、経済の問題である。経済社会における価値の創造から、自らの貯蓄の手法に至る、収入と支出に関わる身近な問題への対処と選択を学び、「経済」について理解する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① はじめに一オリエンテーション ② 経済の指標の取り方 ③ 価値と市場について—GDPの基礎概念 ④ 生産活動と所得—「分け前」の獲得 ⑤ 誰がお金を使ったか？—消費と企業活動 ⑥ 市場の均衡と景気 ⑦ 資産とは何か—ポートフォリオ・セレクション ⑧ お金の「価格」とは何か ⑨ 消費者の満足とは—効用水準 ⑩ 自分にとっての価値（主観的価値と客観的価値） ⑪ 何を買うのか？—消費の選択 ⑫ 満場一致が望ましい—パレートの意味での効率性 ⑬ 企業活動—利潤と費用 ⑭ クレジットカードの意味—支出と所得と時間の関係 ⑮ 異時点間の消費選択—住宅ローンに代表される借入れの問題 ⑯ 定期試験—記述式 		
予復習等	【予習】 諸種の情報媒体を利用し、直近の経済事情に興味を持ち、背景を調査すること。 【復習】 显示したスライドや配布資料における疑問点について調べ、理解を深めること。		
評価方法	出席状況・受講態度25%、定期試験75%		
履修条件	各回のテーマに興味を持ち講義に臨むこと。		
教科書	なし。		
参考書	「経済学のエッセンス100」 中央経済社 著：多和田眞 他		

平成31年度 教養教育科目 シラバス			
科目名	生活と福祉 Social Welfare	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年後期）	科目区分	講義
担当者	天池 洋介	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生が北欧デザインなど日本にある身近なものに興味・関心を持ち、主体性を持って北欧の文化とその背後にある福祉の考え方を幅広く学び、理解することができるようになる。その上で福祉の現場における具体的なサービスと、それを支える社会政策を学び、福祉国家とはどういうものかを、学生が自分なりにイメージすることができる。そして最終的には北欧の事例を理解することで、日本の現状を検討し、日本における問題の解決方法を、学生自身が自分なりに考えることができることを目的とします。		
授業概要	【担当者の実務経験：公的機関の生活・福祉電話相談員の経験あり】 近年、日本でもスウェーデンのIKEA、フィンランドのMarimekko、デンマークのFlying Tiger Copenhagenなどの北欧デザインやその製品が、若い女性を中心に注目されています。本講義はこのような北欧デザインや北欧の文化を通じて、北欧の豊かな生活と高い水準の福祉について学びます。また、世界の最先端と言われる福祉のシステムや経済、政治のあり方から、人々の生活と幸せを支援する国の姿＝福祉国家について楽しく学びます。最終的に北欧の姿を鏡にして、日本の現状と課題を考えます。本講義は実物や映像を見ながら、ときに調べ学習や体験も交えて学ぶアクティブ・ラーニング型の講義です。話を聞くだけではなく、自ら考え、学ぶことを楽しみ、積極的に参加することを期待しています。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 日本の中の北欧を探す ② 北欧デザインから幸せの支援を考える ③ 北欧デザインの背景と実際 ④ 像で見る福祉国家の生活 ⑤ 誰もが安心して暮らせる普遍主義 ⑥ 北欧5カ国を知る ⑦ スウェーデン語を学ぶ ⑧ 本当の教育を考える ⑨ 現場重視の福祉制度 ⑩ 家事や育児を分担する家庭と社会 ⑪ 話し合いで心を癒やす精神科治療 ⑫ 北欧のいいなと思うところ ⑬ 人を助ける経済のしくみ ⑭ 社会をコントロールする政治の力 ⑮ 日本で幸せを支える福祉を考える ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】 授業終了時に、次回の予習となるような宿題を出します。		
評価方法	宿題・授業課題45%、定期試験55%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	なし。		

科目名	現代社会と法律 Modern Society and the Law	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生デ（1年後期）／英文・国文・食栄（2年後期）	科目区分	講義
担当者	近藤 真	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>①目的法とは何か、憲法とは何かを理解する。 ②日本国憲法の社会権を理解し、社会に出たときに、公民としての憲法的教養と自覚が身に付く。</p>		
授業概要	<p>現代社会は当然ながら法律の社会でもある。人々は法の支配のもとにあって、初めて安全と安心を確保できる。では、法律とは一体何であろう。本講義では、法とは何か、憲法とは何か、の根本にさかのぼりながら、現代社会にとって法律がどんな意味を持っているのかを考え、憲法の社会権を中心に、現代社会における法の到達点と課題を究明する。</p>		
授業計画	<p>① 入門 ② 法とは何か ③ 憲法と法律 ④ ビデオ「NZの環境法」 ⑤ 環境権とは何か ⑥ 四大公害訴訟の法的意義 ⑦ 岐阜の環境問題と法律 ⑧ ビデオ「教育問題」 ⑨ 教育権とは何か ⑩ 国家と教育 ⑪ 能力主義と教育 ⑫ ビデオ「労働問題」 ⑬ 労働権とは何か ⑭ 労働時間短縮と文化的生存権 ⑮ まとめ ⑯ テスト(論述式、テキスト・六法持込可)</p>		
予復習等	<p>【予習】課題図書を3冊読む。 【復習】教科書と模範小六法を読む。</p>		
評価方法	テスト70%、レポート30%、出席5%		
履修条件	なし。		
教科書	『憲法とそれぞれの人権』／編集：現代憲法教育研究会／出版：法律文化社 『模範小六法』／編集：判例六法編修委員会／出版：三省堂		
参考書	授業内で配布する課題図書一覧表で示す。		

科目名	生物学 Biology	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（2年後期）	科目区分	講義
担当者	三宅 恵子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>生物学（生命科学）は急速に研究が進んでおり、医療分野への応用や自然環境の保全等、私たちの生活に深く関わる分野である。本授業では、生物学の基礎的な知識を理解し、生物学をめぐる諸問題に対し、どのように考え行動していくかを習得することを目的とする。今後、生物学の知見や技術が応用される社会を想像し、新たに生じうる問題に対し、自ら情報収集に努め、個人として、市民として、さまざまな立場や観点から自らの考えをもって議論できるようになることを達成目標とする。</p>		
授業概要	<p>生命の本質は2つある。その一つは、遺伝情報を自己複製することで後世に伝えていくこと、そしてもう一つは、代謝活動により個体の生命活動を維持することである。本授業では、まず生命の基本単位である細胞の構成要素、各器官の働き、遺伝について学び、さらに生命活動を、生殖方法、発生、機能分化などの観点からみることで、どのように個体が維持されているかを学ぶ。最後に、生物と環境の関わりや生命科学の諸問題について、最近の話題を取り上げながら、生命科学と社会の問題を考える。なお、開講順と開講テーマは変更される場合がある。</p>		
授業計画	<p>① 生命とは ② 生命の誕生と変遷 ③ 組織と細胞、構成要素 ④ 細胞の活動、組織と器官 ⑤ 細胞分裂と遺伝、染色体・DNA・遺伝子 ⑥ 様々な遺伝 ⑦ 発生、機能分化 ⑧ 生殖方法 ⑨ 生物と環境の関わり 生物間の相互作用 ⑩ 生物と環境の関わり 物質循環 ⑪ 科学史の中の生命科学 ⑫ 生命科学の最前線 細胞の初期化 ⑬ 生命科学の最前線 再生医療 ⑭ 生命科学の最前線 生殖医療と遺伝子診断 ⑮ 生命科学をめぐる諸問題 ⑯ 試験－記述式</p>		
予復習等	<p>【予習】各回のテーマについて、新聞やテレビ・インターネットのニュースなどで最新の情報に触れるように努めること。 【復習】配布資料を読み、疑問に感じたことを調べ、理解を深めること。</p>		
評価方法	出席状況20%、授業に対するコメントペーパー20%、定期試験60%		
履修条件	学修規定による。真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	なし。		
参考書	好きになる生物学 第2版 (KS好きになるシリーズ) 吉田邦久著、単行本 (ソフトカバー)、講談社		

科目名	生活と環境 Environmental Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年前期）	科目区分	講義
担当者	オムニバス	教員区分	学内教員／非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>学生が生活に関わるさまざまな環境問題を知り、その要因を理解して、対応や解決策を考え、自らの生活の中で、環境に良い行動ができるようになることを目的とする。教養教育科目の自然・環境の理解の分野で、「生活と環境」を学ぶことによって、現在の自然環境、人工環境、社会環境、情報環境の下で、学生自らの行動を見直し、環境に負荷をかけ過ぎない生活、高度に複雑化した環境を正しくとらえる力を身に付け、未来にむけて持続発展できる環境に良い行動に変容して行くことを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：授業計画②、③、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑬、⑮の回は、それぞれのテーマについて、現役または勤務経験のある講師が担当】 山や川などに育まれた「自然環境」、人間が作り出した「人工環境」、家族制度及び法律などの「社会環境」、さらに近年、変化が著しい「情報環境」など、私たちは、あらゆる「環境」の中で生活している。この授業では、これらが絡み合う複雑な現代社会を、健康で安全に生活していくため、身の回りにある環境問題と影響を受ける心身に関する知識を習得し、理解を深める。講義は、毎回異なる学内外の専門家が担当するオムニバス形式で行う。11回ある実務経験者の回は、最新の現状や現場ならではの実体験をもとに授業を実施する。選択科目だが、どの授業も大学生として知ってほしい知識ばかりのため、積極的に履修すること。なお、開講順と開講テーマは変更される場合がある。</p>		
授業計画	<p>① 生活と環境ガイダンス及び食と環境 【担当：食物栄養学科 道家】 ② 学生生活とカウンセリング 【担当：臨床心理士】 ③ 悪質商法などの被害に遭わないために 【担当：岐阜県県民生活相談センター】 ④ 大学生の食生活について 【担当：食物栄養学科 山田】 ⑤ 地球温暖化と私たちの暮らし 【担当：岐阜市地球環境課】 ⑥ 薬物乱用防止 【担当：岐阜県薬務水道課】 ⑦ 暮らしの中の認知機能 【担当：食物栄養学科 高橋】 ⑧ 生活の中のDV 【担当：DV防止活動のNPO法人】 ⑨ 知っておきたい選挙制度 【担当：岐阜市選挙管理委員会】 ⑩ ユニバーサルデザイン 【担当：生活デザイン学科 小川】 ⑪ 未来を紡ぐ、「男女共同参画社会」へ 【担当：男女共同参画活動のNPO法人】 ⑫ インターネットと情報モラル 【担当：情報セキュリティ分野の講師】 ⑬ 日常生活と防犯、ストーカー対策 【担当：岐阜北警察署生活安全課】 ⑭ 安全・安心なまちづくり 【担当：生活デザイン学科 服部】 ⑮ 女性のからだと出産 【担当：岐阜大学医学部附属病院の医師】</p>		
予復習等	<p>【予習】 各回のテーマについて、新聞・本などで最新の現状を調査しておくこと。 【復習】 配付資料を読み、疑問に感じたことを調べ、理解を深めること。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度30%、学内教員のレポート40%、外部講師のレポート30%		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	なし。		
参考書	なし。		

科目名	生活と化学 Chemistry	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	食栄（1年前期）／英文・国文・生デ（2年前期）	科目区分	講義
担当者	小野 廣紀	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>化学の基礎的な考え方や概念を理解する。具体的には、有効数字やSI単位について理解し、簡単な計算問題を解けるようにする。また、私たちの日常生活はエネルギーを消費することで成り立っている。そのエネルギーに関係するものとして、紫外線や食品を取り上げるが、その性質について理解する。また、食品に含まれる代表的な有機化合物や無機化合物の構造や性質についても理解する。</p>		
授業概要	<p>日常生活の中で、私たちの身のまわりにあるものは、すべて化学とかわりがある。化学が普段の暮らしにどれだけ役立っているかを身のまわりにあるものを通して、わかりやすく解説してみたい。 たとえ高校で、化学を学んでいなくても理解ができるように配慮し、なるべく身近な事例、たとえば、食品や生体に含まれる成分などを題材に取り上げ、生活と化学とのかかわりについて考えてみたい。</p>		
授業計画	<p>① はじめに ② 化学の基礎知識 ③ 物質の測定（1） ④ 物質の測定（2） ⑤ 紫外線（1） ⑥ 紫外線（2） ⑦ 食物エネルギー ⑧ ダイエット（1） ⑨ ダイエット（2） ⑩ 身のまわりの酸 ⑪ アルコール（1） ⑫ アルコール（2） ⑬ 食品中の有機化合物 ⑭ 食品中の無機化合物 ⑮ まとめ ⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】 事前にテキストの該当する章をしっかりと読んでくる。 【復習】 ノートに整理し、理解する。</p>		
評価方法	定期試験100%		
履修条件	なし。		
教科書	『わかる化学』／著・松井徳光ほか／出版：化学同人		
参考書	なし。		

科目名	日本社会の歩み Japanese History	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文（1年後期）／食栄・生デ（2年後期）	科目区分	講義
担当者	森田 晃一	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	歴史を学ぶことは、たんに過去の実事を知識として習得することではない。過去と現在との間には密接な関係が、ときには緊張感さえたよう関係が存在する。この授業では、現代社会の問題を過去に遡ることにより深く理解し、改めて私たちがそれに向き合う姿勢を養うことを目的とする。歴史知識の多寡を問うのではなく、今後の人生で種々の問題に直面した時に活かせる、歴史学的方法を身につけることを到達目標とする。		
授業概要	この授業では、平和社会・国際交流・自然環境・文化芸術の4テーマから、現代社会に関わる問題をそれぞれ設定し、過去に遡りながら歴史学的方法を用いて史実を把握し、当該の問題のより深い理解を試みる。毎回の授業の終わりにコメント用紙を配布して意見を求める。次回の授業は、そのいくつかの意見の検討と共有から始まる。平和社会と国際交流のテーマ終了後に、第1回の授業内容を確認する小テストを行う。自然環境と伝統文化のテーマ終了後に、第2回の授業内容を確認する小テストを行う。期末レポートを課すが、そのテーマは授業内容に関する文献の読解とそのまとめ（受講者が選定した一冊）である。授業内容を関連文献の読解によって深めることが期待される。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① はじめに一過去と歴史― ② 近世社会の現代性 ③ 平和社会（1）―近代の戦争― ④ 平和社会（2）―戦国から天下統一へ― ⑤ 平和社会（3）―徳川の平和― ⑥ 国際交流（1）―「鎖国」とは― ⑦ 国際交流（2）―「四つの口（蝦夷地・朝鮮通信使）」― ⑧ 国際交流（3）―「四つの口（長崎貿易・琉球王国）」― ⑨ 自然環境（1）―近世の気候― ⑩ 自然環境（2）―災害（火事と地震）― ⑪ 自然環境（3）―循環型社会― ⑫ 伝統文化（1）―笑話の世界― ⑬ 伝統文化（2）―歌舞伎の成立― ⑭ 伝統文化（3）―茶道と家元制度― ⑮ まとめ―日本社会の歩み― ⑯ 定期試験・レポート 		
予復習等	【予習】配布するプリントについて、事前学習しておくこと。 【復習】配布プリントを読み、関連文献を調べ、理解を深めること。		
評価方法	出席状況・授業態度10%、授業内容確認小テスト50%（2回）、期末レポート40%		
履修条件	なし。		
教科書	適宜、プリントを配布する。		
参考書	必要に応じて、授業内で紹介する。		

科目名	心理学 Psychology	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（2年前期）	科目区分	講義
担当者	吉田 琢哉	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	身近な対人関係の問題を主な題材として、学生が心理学的な考え方やものの見方を身につけることを目標とする。具体的には、学生が以下の事柄について説明できるようになることを目的とする。 （1）心理学の成り立ち （2）人の感覚・知覚、記憶、学習、感情などの基本的なしくみ及び働き （3）社会、教育および発達心理学の領域における人の心の捉え方		
授業概要	心理学は心の問題を中心的に扱う学問である。ただし、心をどのようにとらえるかは、同じ心理学でも領域によってさまざまである。そこで本授業は、心理学でのさまざまな“心の見方”を概観しながら、人の心についての理解を深めることを目指す。具体的には、社会心理学・教育心理学・発達心理学の分野を中心的に学ぶ。そして心理学における基礎知識やものの考え方を身につけることを目標とする。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション・心理学とは ② 心理学の研究手法 ③ 色彩の心理学的効果 ④ 他者を好きになる心 ⑤ 他者を見る心 ⑥ 他者と比べる心 ⑦ 人の発達 ⑧ 親密な人間関係 ⑨ 私語の問題を心理学的に考察する ⑩ 中間試験 ⑪ 犯罪の心理 ⑫ ストレスのコントロール ⑬ 記憶のメカニズム ⑭ 学習のメカニズム ⑮ コミュニケーションの技術 ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】事前に資料を精読してくること。 【復習】講義内容を復習しながら小課題に取り組むこと。		
評価方法	小テスト20%、定期試験80%、試験は授業中に配布した資料のみ持ち込み可とする。尚、他の学生の学習動機づけを下げたり、迷惑を及ぼす行為は減点となる。		
履修条件	学修規定による。		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		

科目名	ジェンダー論 Gender Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年後期）	科目区分	講義
担当者	相原 征代	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ジェンダーという言葉の正しく理解し、ジェンダーの視点から社会事象を分析することが可能になる。 男/女という二項対立を超え、ダイバーシティの視点から、性別にまつわる問題を考えることが可能になる。		
授業概要	ジェンダー、よく使われる言葉ですが、いまいち意味が分からないと思いませんか。何となく「女性の問題」だから男に関係ない、とか「バリキャリ女性のための学問でしょ」と思いませんか。実は、普段の生活や現代社会において、政治からテレビのワイドショーやマンガに至るまで、ジェンダーが関係していないものはないといっていいほど、私たちの生活に深くかかわっています。この授業では、ジェンダー学が私たちの日常にどのようにかかわっているかを考え、少子化、晩婚化など、新聞等のメディアでよく取り上げられる「社会問題」をジェンダー学的視点から再検討し、最終的には、学生自らの視点でこれらの問題点の「再構成」を目指します。		
授業計画	① 授業ガイダンス、評価方法などの説明。【以下、担当は原則として相原】 ② なぜ「ジェンダー論」を学ぶのか？—権利から解放、そして男女共同参画（男女平等）へ（1） ③ なぜ「ジェンダー論」を学ぶのか？—権利から解放、そして男女共同参画（男女平等）へ（2） ④ 「ジェンダー」とは何か — 「セックス」との違いと「ジェンダー・トラブル」ショック ⑤ 日本の恋愛のカタチ — 恋愛と結婚をめぐる悩みを通じて ⑥ 母性をめぐる社会問題（1） ⑦ 母性をめぐる社会問題（2） ⑧ メディアに見るジェンダー論（1） ⑨ メディアに見るジェンダー論（2） ⑩ メディアに見るジェンダー論（3） ⑪ 期末論述テスト回答の方法の解説 ⑫ 「結婚するかもしれない症候群？」（1）結婚をめぐる日本社会の現状（パラサイトシングル・未婚化・晩婚化・非婚化） ⑬ 「結婚するかもしれない症候群？」（2） ⑭ 結婚による格差の拡大—パラサイト・シングルからパワーカップルへ ⑮ 前期のまとめ ⑯ 試験 — 記述式（論述構成メモ持ち込み可）		
予復習等	【予習】新聞・テレビ・インターネット等で、ジェンダーにまつわる記事・論文・論説を注意して読み、重要なものは収集しておく。【復習】論述試験に備えて、ジェンダーにまつわる本や収集した記事・論文を参考文献としながら、レポートとしてまとめておく。		
評価方法	授業態度・参加の姿勢20% 授業期間中の提出物10% 期末論述テスト70%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	小山真紀・相原征代他編『生きづらさへの処方箋』ナカニシヤ出版、2019年。藤田尚志・宮野真生子 編『愛・性・家族の哲学③ 家族—共に生きる形とは？』ナカニシヤ出版、2016年		

科目名	文学と映像 Literature and Film Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英文・国文・食栄・生デ（1年前期）	科目区分	講義
担当者	杉山 寛行	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	様々な「媒体」、「手段」で表現されたものを、豊かに読み取り、理解すること（読解）が可能になること、それが本授業の目的です。 自分自身で自立的に、様々な「作品」が分析・理解することができるようになること、それが到達目標です。		
授業概要	表現は、その媒体の特質を利用しながら、伝えたいことを「かたち」としてあらわします。本授業では、コトバを主とする「文学作品」と、映像や音声などを主とする「映像作品」を題材に、そこではどのような「表現」の「たくらみ」がなされているかを、現代の分析理論を援用、理解しながら、実際の作品を分析すること（読解）を通して考えてゆきます。受講者のみなさんが、自身で読解を豊かに展開し、文章化すること（表現）を作業としておこないます。		
授業計画	① はじめに一オリエンテーション ② 日本語読解の基礎 ③ 作品の読解・分析（まず自分で読んでみよう） ④ 表現のたくらみ—分節 時間表現 ⑤ 表現のたくらみ—ストーリー／プロット ⑥ 表現のたくらみ—二項対立 錯時法 ⑦ 作品分析（映画を分析してみよう） ⑧ 作品分析（映画を分析してみよう） ⑨ プロップ『昔話の形態学』の機能分析 ⑩ 作品の構造とはなにか ⑪ 文学作品の分析をしてみよう ⑫ 作品の分析と批評とはなにか（レポートの作成） ⑬ 映画のなかの記号／象徴 モノがなう意味 ⑭ 映画の分析 ⑮ まとめ		
予復習等	【予習】次回までの作業を時間ごとに指示する。 【復習】時間内に必要とする作業を指示する。		
評価方法	レポート（時間内に指示する）60% 課題提出（レポートとは別に指示する）20% 出席状況・授業での取り組み20%		
履修条件	なし。		
教科書	プリントを配布する。		
参考書	主題ごとに必要な参考文献を指示・紹介します。		

科目名	スポーツ実技 Sports and Exercise	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	英文・生デ（1年前期）／国文・食栄（1年後期）	科目区分	実技
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>この授業では、生涯にわたって運動に親しもうとする意識が養われることを目的とします。そのために重要なこととして、楽しむこと、どのような運動が自分に合うかを知ることが挙げられます。これらを達成するため、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しむ方は多様であることを認識する ・楽しむためには参加者の様々な状況について相互理解と協力が重要であると認識する ・どのような運動が自分の好み、体力特性、得手不得手などに合っているかを認識する 		
授業概要	<p>授業では、楽しむことを最も重視して進めていきます。受講者は運動能力や体力の高い人からそれほど得意でない人まで様々ですので、そのことを考慮した難易度設定や雰囲気作りを行います。受講者には、自分自身はもちろん周囲の人達も楽しめるように意識することを求めます。</p> <p>スポーツや運動は、用いられる技術やゲームの特性、必要となる体力特性などによって、カテゴリ分けをすることができます。この授業では、それらの特性を偏らせることなく、様々な種目をカテゴリ毎に実施します。特定の種目の技術や体力を高めるタイプの授業ではなく、体験型の授業とします。様々な種目を体験することにより、自分自身に合うスポーツや運動のタイプを認識できるようになることを目指します。具体的な実施種目は、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布してお知らせします。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 学内スポーツ施設体験（1） ③ 学内スポーツ施設体験（2） ④ チームスポーツ（攻守分離型）（1） ⑤ チームスポーツ（攻守分離型）（2） ⑥ ニューススポーツ（1） ⑦ ニューススポーツ（2） ⑧ チームスポーツ（攻守混合型）（1） ⑨ チームスポーツ（攻守混合型）（2） ⑩ チームスポーツ（攻守混合型）（3） ⑪ 個人スポーツ（ネット対戦型）（1） ⑫ 個人スポーツ（ネット対戦型）（2） ⑬ レクリエーションスポーツ（1） ⑭ レクリエーションスポーツ（2） ⑮ まとめ 		
予復習等	<p>【予習】実施種目の基本的なルール等を確認しておいてください。 【復習】メディア等で実施種目を視聴・観戦し、特性等を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況60%、授業態度40%		
履修条件	運動するのに適した服装をしてください。 シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし。		
参考書	なし。		

科目名	健康とスポーツ Health Science and Exercise	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国文・食栄（1年前期）／英文・生デ（1年後期）	科目区分	演習・講義
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>運動、栄養、休養は「健康の三本柱」と言われます。この授業では、健康と運動の関連性を理解するとともに、生涯にわたり楽しんで運動を継続していく意識が養われることを目的とします。そのために、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動が身体の状態に与える影響を理解する ・運動には多様な楽しみ方があることを認識する ・自分に合う運動のタイプを認識する。 		
授業概要	<p>この授業は、スポーツの実践と健康科学の講義を組み合わせられて実施されます。スポーツの実践では、楽しむことを重視します。運動能力や体力レベルが様々な人達が集まって行われますので、受講者には、自分自身はもちろんのこと周囲の人達も楽しめるよう意識することを求めます。スポーツ実践においては更に、消費エネルギーの計算や心拍数の測定など、講義と関連づけた演習も行います。</p> <p>講義では、運動をする・しないことによって身体にどのような変化が起こり、健康状態にどのように影響するのか、ということについての基本事項を学びます。</p> <p>第2～6回はクラス単位で隔週実施、初回および第7～10回は学科単位で毎週実施します。実施順や具体的なスポーツ種目については、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布して説明します。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 学内スポーツ施設体験 ③ チームスポーツ（攻守分離型） ④ ニューススポーツ ⑤ チームスポーツ（攻守混合型） ⑥ 個人スポーツ（ネット対戦型） ⑦ 講義「健康とは？運動しないとどうなる？」 ⑧ 講義「肥満と痩せとダイエット」 ⑨ 講義「身体活動量の目安、『健康』に関わる体力要素」 ⑩ 体力づくり実践 		
予復習等	<p>【予習】実施するスポーツ種目の基本的なルール等を確認しておいてください。 【復習】講義で取り扱った内容について、書籍等で詳細を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況・態度60%、レポート40%		
履修条件	スポーツ実践の際には、運動するのに適した服装をしてください。 シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし。		
参考書	なし。		

科目名	情報処理 I (基礎) [英文] Computer Literacy I	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	英語英文学科 (1年前期)	科目区分	講義
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ビジネス用アプリケーションソフトの基本的な操作方法を学び、文書作成や表計算、プレゼンテーション技法について演習を通じて習得する。また、ネット社会における情報セキュリティなどの脅威とその対策、情報モラルを理解することで、概念的な常識についても学習する。文書作成、表計算、グラフ作成、スライド作成、情報モラルを身につけることを目標とする。		
授業概要	Windowsの操作から始めて、ワープロソフト (Word) と表計算ソフト (Excel) の操作、パワーポイント (PowerPoint) の基本操作を学ぶ。これらのソフトの操作方法を確認するだけでなく、演習を通じて、実践的な知識・技術を身につける。また、情報セキュリティや情報モラルでは、スマートフォンやSNS (Social Networking Service) など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威について学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② Windows の操作 ③ ファイルとフォルダの操作 ④ Word (1) 基礎 ⑤ Word (2) 文書の作成 ⑥ Excel (1) 基礎 ⑦ Excel (2) 表 ⑧ Excel (3) グラフ ⑨ Excel (4) 統計関数 ⑩ Excel (5) 論理関数 ⑪ 情報セキュリティ ⑫ 情報モラル ⑬ PowerPoint (1) 基礎 ⑭ PowerPoint (2) 演習 ⑮ まとめ 		
予復習等	【予習】前回の授業で指定した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。 【復習】授業でやった内容を再度一通り演習を行うこと。		
評価方法	出席状況及び授業態度 25%、授業内試験 75%		
履修条件	なし。		
教科書	『イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラル』/出版: noa出版		
参考書	なし。		

科目名	情報処理 I (基礎) [国文] Computer Literacy I	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科 (1年前期)	科目区分	講義
担当者	木村 充位	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	コンピュータの基本的な操作方法を学び、授業のレポート作成ができるようになること、卒業後の進路に役立つ資格取得を目的とする。教養教育科目の「情報科学」の分野で「情報処理 I (基礎)」を学ぶことによって、学生が社会で活躍するため、基本的な文書作成能力 (ビジネス文書や報告書などを作成する能力) が身に付き、一般的な事務処理ができるようになることを到達目標とする。		
授業概要	本講義では、コンピュータに慣れ親しみ、基本的なコンピュータ操作を学ぶことでコンピュータリテラシーの技術を修得することを目標とする。他の授業のレポート作成など今後の学生生活でもコンピュータを使うことは必須であるため、Windowsの基本操作を学ぶことから初めて、Word (ワープロソフト) やExcel (表計算ソフト) の基本操作方法を学ぶ。また、授業では文部科学省後援の日本情報処理検定協会が主催するワープロ検定 2 級の資格取得を意識したビジネス文書の作成なども行う。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① Windows基本操作、アプリケーションの操作 ② フォルダ・ファイルの操作、日本語入力 ③ 電子メールの利用方法と実践 (1) ④ 電子メールの利用方法と実践 (2) ⑤ Wordの基本操作 (1) (文章の作成と保存) ⑥ Wordの基本操作 (2) (文章のレイアウト) ⑦ Wordの基本操作 (3) (表の作成、エクセルの表の挿入) ⑧ Wordの基本操作 (4) (ビジネス文書の作成 (1)) ⑨ Wordの基本操作 (5) (ビジネス文書の作成 (2)) ⑩ Wordの基本操作 (6) (レイアウト機能、図形描画) ⑪ Excelの基本操作 (1) (セルへの入力、セルの書式設定) ⑫ Excelの基本操作 (2) (表計算の基本) ⑬ Excelの基本操作 (3) (表計算の絶対参照と相対参照) ⑭ Excelの基本操作 (4) (グラフの作成 (1)) ⑮ Excelの基本操作 (5) (グラフの作成 (2)) ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】各テーマについて、本などで調べておく。 【復習】配布資料を読み、授業で作成したデータを再度自分で作成する。		
評価方法	出席状況・授業態度・レポート 50%、定期試験 50%		
履修条件	なし。私語は厳禁とする。		
教科書	なし。		
参考書	なし。		

科目名	情報処理 I (基礎) [食栄] Computer Literacy I	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年前期)	科目区分	講義
担当者	藤掛 和広	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>・授業目的：学生がパーソナルコンピュータの基本的な操作を理解・習得すると共に、オフィスソフトウェア（例：ワード、エクセル、パワーポイント）の機能の理解及び操作の習得を目的とする。</p> <p>・達成目標1：学生がパーソナルコンピュータを単独で操作する。</p> <p>・達成目標2：インターネットを利用した情報収集によって、パーソナルコンピュータに関連する疑問点等を独自に解決する。</p>		
授業概要	<p>本講義では、ワープロソフト（マイクロソフト・ワード）、表計算ソフト（マイクロソフト・エクセル）、プレゼンテーションソフト（マイクロソフト・パワーポイント）について、基本的な操作及び基礎的な技能を習得する。</p> <p>基本的な操作については、複数回の講義によって学習する。</p> <p>基礎的な技能については、演習課題を実施することで習得する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② ワード（1）：基本操作 ③ ワード（2）：文書作成 ④ ワード（3）：表の作成 ⑤ ワード（4）：演習課題 ⑥ エクセル（1）：基本操作 ⑦ エクセル（2）：表とグラフ ⑧ エクセル（3）：データベース ⑨ エクセル（4）：関数（1） ⑩ エクセル（5）：関数（2） ⑪ エクセル（6）：演習課題 ⑫ パワーポイント（1）：基本操作 ⑬ パワーポイント（2）：プレゼンテーション ⑭ パワーポイント（3）：演習課題 ⑮ 試験（授業内試験） 		
予復習等	<p>【予習】 各回テーマに該当する教科書の内容を読んでおくこと。</p> <p>【復習】 講義内容を振り返り、学習した操作が実施可能か確認すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度・課題40%、試験60%		
履修条件	なし。		
教科書	イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラル		
参考書	なし。		

科目名	情報処理 I (基礎) [生デ] Computer Literacy I	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年前期)	科目区分	講義
担当者	白井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>今後の学校生活、社会生活において必要となる、基本的なコンピュータ操作に関する知識・技術を習得することを目的とし、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>(1) Word：ビジネス文章を作成できる知識・技術を習得する。</p> <p>(2) Excel：表計算の基礎的な知識・技術を習得する。</p> <p>(3) PowerPoint：プレゼンテーション資料の基本的な作成方法を理解する。</p>		
授業概要	<p>windowsの操作方法から、ワープロソフト(Word)、表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作を学ぶ。それらのアプリケーションに触れながら学び、演習問題に取り組むことで、他の授業におけるレポート作成や、プレゼンテーション資料作成などに必要となるコンピュータ操作の基礎的な知識・技術を習得する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、Windowsの基本操作 ② MS Word 基本 ③ MS Word 文章作成 ④ MS Word 表の作成 ⑤ 演習問題 ⑥ MS Excel 基本 ⑦ MS Excel 関数（1） ⑧ MS Excel 関数（2） ⑨ MS Excel グラフとデータベース（1） ⑩ MS Excel グラフとデータベース（2） ⑪ 演習問題 ⑫ MS PowerPoint 基本 ⑬ MS PowerPoint スライドの作成 ⑭ MS PowerPoint プレゼンテーション ⑮ 演習問題 ⑯ 試験 		
予復習等	<p>【予習】 前の授業で提示された課題に取り組む。</p> <p>【復習】 授業で行った内容について確認を行い、次の授業に備えて課題を進める。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度20%、提出作品・その他提出物20%、期末試験60%		
履修条件	なし。		
教科書	今すぐ使えるかんたん Word & Excel & PowerPoint(技術評論社)、配布資料		
参考書	授業内で適時紹介。		

科目名	情報処理Ⅱ（応用） [英文] Computer Literacy II	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本演習では、これからの時代に必要とされる統計の初歩(Excel)とビジネスなどで必要不可欠であるプレゼンテーション(PowerPoint)について、理論・演習を通じて習得する。統計については、図やグラフの見方・捉え方を身につけること、プレゼンテーションについては、情報処理技能検定（プレゼンテーション作成）2級レベルを到達目標とする。		
授業概要	本演習では、表計算ソフト(Excel)を用いた統計処理の基本とプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の応用技術を演習課題によって習得する。Excelの学習では、統計の基礎（平均や合計など）を学んだうえで、実際に実験を行い、データ収集をし、統計処理の基本について習得する。PowerPointの演習では、プレゼンテーション技術の習得だけではなく、個人あるいはグループでスライド作成をし、発表を行う。		
授業計画	① ガイダンス ② Excel（1） 統計の重要性・必要性 ③ Excel（2） 統計処理の基礎 ④ Excel（3） 実験 ⑤ Excel（4） 実験データの入力と統計処理 ⑥ Excel（5） まとめ ⑦ PowerPoint（1） 基本とスライドの作成 ⑧ PowerPoint（2） 演習 ⑨ PowerPoint（3） スライド作成課題（個人） ⑩ PowerPoint（4） 発表① ⑪ PowerPoint（5） 発表② ⑫ PowerPoint（6） スライド作成課題（グループ） ⑬ PowerPoint（7） スライド作成課題（グループ） ⑭ PowerPoint（8） 発表 ⑮ まとめ		
予復習等	【予習】 前回の授業で指定した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。 【復習】 授業でやった内容を再度一通り演習を行うこと。		
評価方法	出席状況及び授業態度30%、授業内課題70%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	情報処理Ⅱ（応用） [生デ] Computer Literacy II	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	坂本 牧葉	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、情報を扱い、資料を作成する上でのソフトウェアの操作方法や留意点を学ぶ。MS Wordでは論文などを想定した長文編集の方法、Excelでは応用可能な統計解析やマクロの基礎を身につける。PowerPointでは発表する内容に応じたスライドデザインを自身で制作する方法や、効果的なプレゼンテーションの方法を実践的に身につける。また後半はAdobe Illustrator、Photoshopの操作を学び、演習課題の制作を通して専門分野に関わらず応用可能なグラフィックデザインの基礎技術を習得する。		
授業概要	MS Wordはサンプルデータを編集することによって、アウトライン作成やページ番号の挿入などを学習する。Excelではサンプルデータを用いてピボットテーブルの作成や単回帰分析などを学ぶ。PowerPointの学習では、テーマに応じてスライドマスターを自身で編集・デザインし、実際に発表を行う。Adobe Illustratorでは演習を通してベクターデータの描画・編集などの基本操作を身につけ、Photoshopではラスター画像の描画・編集方法を学ぶ。		
授業計画	① MS Word（1） 文書作成の応用技術 ② MS Word（2） 文書作成の応用技術 ③ MS Excel（1） データの集計と分析 ④ MS Excel（2） データの集計と分析 ⑤ MS Excel（3） マクロ ⑥ MS PowerPoint（1） スライド作成課題 ⑦ MS PowerPoint（2） スライド作成課題 ⑧ MS PowerPoint（3） 発表 ⑨ Adobe Illustrator（1） 基本操作 ⑩ Adobe Illustrator（2） 基本操作 ⑪ Adobe Photoshop（1） 基本操作 ⑫ Adobe Photoshop（2） 基本操作 ⑬ Illustrator、Photoshopを用いた課題制作（1） ⑭ Illustrator、Photoshopを用いた課題制作（2） ⑮ Illustrator、Photoshopを用いた課題制作（3） ⑯ 総評		
予復習等	【予習】 参考書の精読や、授業内で扱う技術に関する調査など。 【復習】 配布資料の読み直し、配布データを使った復習など。		
評価方法	出席状況・授業態度20%、課題提出80%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	実教出版 飯田慈子、米沢雄介、岡本久仁子著 「30時間アカデミック 情報活用 Excel2016/2013」		

科目名	英語Ⅰ [国文] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	柳楽 有里	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>目的：映像とスクリプトを用いた教材を通し語彙力を増やし、豊かな表現力を身につけ、修得した単語や表現をライティングやスピーキングで用いることができる。</p> <p>到達目標1：学習した単語や熟語を使って文章を作成できる。</p> <p>到達目標2：まとまった量の英文を聞き、その大まかな内容が理解できる。</p> <p>到達目標3：与えられたテーマについて、学習した語彙や熟語を用いて自分の意見を述べるることができる。</p>		
授業概要	<p>実用的な英語表現を映像とスクリプトを用いた活動を通して学習し総合的な英語力を培う。視聴覚教材に関連する文法事項と語彙を丁寧に確認することによって英語の基礎力を充実させる。さらに、教材で扱われているシーンのリスニングとその内容に関連するスピーキングの練習を行い、多様な英語表現の理解するだけでなく、学習した内容をアウトプットすることで英語力を向上させる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② Unit 1 Love Actually Is All Around ③ Unit 2 Agony of Being in Love ④ Unit 3 Feel Uncomfortable? ⑤ Unit 1から3のまとめ ⑥ Unit 4 Have You Gone Completely Insane? ⑦ Unit 5 It's for You ⑧ Unit 6 You're Beautiful ⑨ Unit 4から6のまとめ ⑩ Unit 7 Merry Christmas ⑪ Unit 8 The Time to Be With the People You Love ⑫ Unit 9 All I Want for Christmas Is You ⑬ Unit 10 Let's Review!! ⑭ Unit 7から10のまとめ ⑮ リスニングの復習 (Unit 1から10まで) ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】次回の授業範囲を単語を調べ、定型表現を暗唱しておくこと。</p> <p>【復習】小テストを行うので学習した単語と定型表現を復習しておくこと。</p>		
評価方法	小テスト40%、定期試験60%として総合的に評価する。		
履修条件	なし。		
教科書	映画総合教材『ラブ・アクチュアリー』		
参考書	なし。		

科目名	英語Ⅰ [食栄 (Aクラス)] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	小島 ますみ	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>英語のコミュニケーション能力の伸長を目的とする。到達目標は以下である。1) 英語で自己紹介することができる、2) 基本的な英語であれば、ナチュラルスピードの会話を理解することができる、3) 道を聞く、買い物をする、ホテルや空港のチェックイン・チェックアウトを行うなど、海外旅行に必要な基本的な英語を聞き取ったり、話したりすることができる。</p>		
授業概要	<p>CALL教室でビデオ・音声教材を使用し、内容理解、ディクテーション、音読、ロールプレイ、シャドーイングなどのさまざまな活動をとおしてリスニング力やスピーキング力を高め、実践的なコミュニケーション能力を養う。使用するビデオ教材は、海外旅行や海外留学・ホームステイを扱った内容なので、海外に短期・長期滞在する上で必須の実用的な英語を学ぶことができる。英語で自己紹介ができるようにする。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス・スピーチ (Self-introduction) ② Unit 1: Getting information ③ Unit 2: Checking in at a hotel ④ Unit 3: Asking for directions ⑤ Unit 4: Renting a car ⑥ Unit 5: Ordering a meal ⑦ Unit 6: Shopping for clothes ⑧ 中間試験 ⑨ Unit 7: Asking for a favor ⑩ Unit 8: Meeting a friend ⑪ Unit 9: Checking out of a hotel ⑫ Unit 10: Expressing preference ⑬ Unit 11: Home stay ⑭ Unit 12: Offering to help ⑮ Review ⑯ 期末試験 		
予復習等	<p>授業内で配布された音声教材を使用し、ディクテーションやシャドーイング、音読練習。期末試験なに加えて、中間試験を行う。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度40%、中間試験30%、期末試験30%		
履修条件	学修規程による。真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『Viva! San Francisco』 Macmillan Languagehouse		
参考書	なし。		

科目名	英語Ⅰ [食栄 (Bクラス)] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	梅澤 敏郎	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>学生が、長年勉強してきた英語の老家であるイギリスに関する幅広いものの見方、特に、文化・社会・歴史などについて学びながら、英語の4技能 (特に読解力) が身に付くようになることを目的とする。アメリカと比べると知られ方の少ない、イギリスに関する、主なトピックや事象について考察し、その独特の面を理解すると共に、内容によっては、日本との差異点や類似点も考察できる力が付くことも、目的のひとつである。このような目的を目指して、英語の総合的な力を付けながら、英文に抵抗感なく触れられるようになることが到達目標である。</p>		
授業概要	<p>やや長い英文 (中には短い英文もあるが) に触れることに慣れている学生も、そうでない学生も、抵抗感なくすべての英文に触れられるように、英語という言語の綴りと発音の特徴、文の仕組み、区切り方などを、学生が考察できるよう教員は指導する。項目が出て来るごとに、学生が考える部分を増やして行き、英文の仕組みを学生が自ら説明できるようにもって行きたい。学生は、予習をしてきて、一文ずつ日本語に直すこともあれば、内容について問われることもある。このようにして、一通り精読した後は、さらに英文に慣れるために、速読やパラグラフ・リーディング、スキャン・リーディング (探し読み) などをを行い、内容理解に努めながら、英文に対しスムーズに接せられるように授業を行う。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① The Celts ② 地理的な知識と英文読解 ③ ケルトは今も生きている ④ Roman Britain ⑤ 歴史的知識と英文読解 ⑥ この時代、ブリテン島は僻地だった ⑦ The Anglo-Saxons ⑧ 文化的知識と英文読解 ⑨ 現代のWASP、ここに始まる ⑩ Alfred the Great and the Danes ⑪ 社会的知識と英文読解 ⑫ 異民族を食い止めた古代のヒーロー ⑬ William the Conqueror ⑭ 言語的知識と読解 ⑮ Pig or Pork? Ox or Beef ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】前回の授業で指定した英文の該当ページを事前に読んでおき、単語の意味と和訳を作っておくこと。【復習】授業で学習した英文をスムーズに読めるまで繰り返し読んでおくこと。課題があったら行うこと。</p>		
評価方法	試験100%。ただし、欠席5回以下と教員の指導に従うことは最低条件。		
履修条件	学修規程による。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	初回の授業で指示する。高校の時用いた参考書や辞書は捨ててしまわないこと。		

科目名	英語Ⅰ [生デ (Aクラス)] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>海外へ旅行するときに遭遇するであろう場面を想定した教材を用いることにより、海外へ出かけてから帰ってくるまでに必要な英語力の習得を目指します。各チャプターで設定された場面でよく使う英語表現を一つ一つ身につけていくことを通じて、旅行だけでなく日常の多くの場面で使うことができる基本的なフレーズの習得を目指し、英語による日常的な会話に臨むための基本的な英語コミュニケーション能力の習得を到達目標とします。</p>		
授業概要	<p>海外への旅行準備～帰国するまでに遭遇するであろう場面を想定した教材を用いて、基本的な英語コミュニケーション能力の習得を目標とする授業です。1回の授業では旅行/日常の英語コミュニケーションにおいて役に立つフレーズを3つずつ学び、それらを中心とした様々なアクティビティを行います。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイドダンス・Chapter 1 旅行準備のときに使う英語表現 ② Chapter 2 機内でよく使う英語表現 ③ Chapter 3 到着と入国審査でよく使う英語表現 ④ Chapter 4 両替するときによく使う英語表現 ⑤ Chapter 5 ホテルにチェックインするときによく使う英語表現 ⑥ Chapter 6 ホテル内でよく使う英語表現 ⑦ Chapter 7 食事の際によく使う英語表現 ⑧ Chapter 8 観光中によく使う英語表現 ⑨ Chapter 9 旅行中の会話でよく使う英語表現 ⑩ Chapter 10 ショッピングでよく使う英語表現 ⑪ Chapter 11 体調を崩したときによく使う英語表現 ⑫ Chapter 12 街を歩いているときによく使う英語表現 ⑬ Chapter 13 ホテルをチェックアウトするときによく使う英語表現 ⑭ Chapter 14 帰るときによく使う英語表現 ⑮ Chapter 15 旅について話すときによく使う英語表現 ⑯ 期末試験 		
予復習等	<p>【予習】各Lessonの音声ファイルをダウンロードし、音声を聞いておくこと。 【復習】各Lessonで学んだフレーズの練習を行い、自分が同じ場面に出くわしたときのことをシミュレーションしておくこと。</p>		
評価方法	授業姿勢 (30%)、期末試験 (70%)		
履修条件			
教科書	Diane H. Nagatomo, 村瀬文子. 『Simply Traveling』, 金星堂		
参考書			

科目名	英語Ⅰ [生デ (Bクラス)] English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	白木 玲子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、所属する学科の専門教育に関連した英文に取り組むことを通して、より高度な英文読解力、および英文聴解力を養成することである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに、ポキャブラリーの拡充をはかり、総合的な英語力の向上を目指す。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、重要な語句について学習し、専門的な語彙力を強化する。発音や文法について学び、練習問題に取り組む。CDによるテキストの朗読を聞き、リスニング力を磨く。会話演習を通して、実践的な英語表現を学ぶ。また、内容把握に関する練習問題にも取り組み、英語の構造および重要な箇所、難解な箇所を理解し、文脈に合った正しい解釈ができるような読解力をも身につける。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① Introduction: 授業説明、Warm-up ② Unit 1 : Introduction ③ Unit 2 : Planning ④ Unit 3 : Floor Plan ⑤ Unit 4 : Building Structure ⑥ Unit 5 : Kitchen ⑦ Unit 6 : Dining & Living Room ⑧ 中間試験 ⑨ Unit 7 : Design & Style ⑩ Unit 8 : Scale & Dimension ⑪ Unit 9 : Colors & Materials ⑫ Unit 10 : Sustainbale Design ⑬ Unit 11 : Natural Hazards ⑭ Unit 12 : Urban Design ⑮ Review ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握し、練習問題を解いてくる。 【復習】試験対策として、前回の授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点 (出席状況、授業態度、小テスト、課題など) 30%、 中間試験30%、定期試験40%		
履修条件	学修規定による。演習、発言を含むため、毎回の授業に真摯かつ積極的に臨むこと。		
教科書	Basic English for Architecture -Listening & Speaking- (南雲堂)		
参考書	なし。		

科目名	英語Ⅱ [国文 (Aクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	白木 玲子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、インタラクティブ・アクティビティを通じ、相手の言葉を正確に聞き取るリスニング力、自分の意見を伝えるスピーキング力を増強し、より高度な英文読解力および聴解力を養成することである。実践的な英語表現や語彙を習得し、総合的な英語力の向上を目指す。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットの映像を視聴する。スクリプトと照らし合わせて視聴することで、リスニング力を強化する。重要な語句について学習し、語彙力を強化する。台詞の会話演習と解釈を通して、語彙および文法を理解し、文脈に即した読解力や実用的な英語表現を身につける。内容把握および文法に関する練習問題に取り組む。また、映像を通して、多様な文化や価値観をも学ぶ。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① Introduction : 授業説明、Lesson 1 ② Lesson 2 ③ Lesson 3 ④ Lesson 4 ⑤ Lesson 5 ⑥ Lesson 6 ⑦ Lesson 7 ⑧ Lesson 8 ⑨ Lesson 9 ⑩ Lesson 10 ⑪ Lesson 11 ⑫ Lesson 12 ⑬ Lesson 13 ⑭ Lesson 14 ⑮ Lesson 15 ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】テキストの該当箇所の内容を把握し、問題を解いてくる。 【復習】試験対策として、前回の授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点 (出席状況、授業態度、小テスト、課題など) 30%、定期試験70%		
履修条件	学修規定による。演習、発言を含むため、毎回の授業に真摯かつ積極的に臨むこと。		
教科書	Miracle on 34th Street (開文社)		
参考書	なし。		

科目名	英語Ⅱ [国文 (Bクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	白木 玲子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、インタラクティブ・アクティビティを通じ、相手の言葉を正確に聞き取るリスニング力、自分の意見を伝えるスピーキング力を増強し、より高度な英文読解力および聴解力を養成することである。実践的な英語表現や語彙を習得し、総合的な英語力の向上を目指す。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットの映像を視聴する。スクリプトと照らし合わせて視聴することで、リスニング力を強化する。重要な語句について学習し、語彙力を強化する。台詞の会話演習と解釈を通して、語彙および文法を理解し、文脈に即した読解力や実用的な英語表現を身につける。内容把握および文法に関する練習問題に取り組む。また、映像を通して、多様な文化や価値観をも学ぶ。		
授業計画	① Introduction : 授業説明、Lesson 1 ② Lesson 2 ③ Lesson 3 ④ Lesson 4 ⑤ Lesson 5 ⑥ Lesson 6 ⑦ Lesson 7 ⑧ Lesson 8 ⑨ Lesson 9 ⑩ Lesson 10 ⑪ Lesson 11 ⑫ Lesson 12 ⑬ Lesson 13 ⑭ Lesson 14 ⑮ Lesson 15 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの該当箇所の内容を把握し、問題を解いてくる。 【復習】試験対策として、前回の授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点 (出席状況、授業態度、小テスト、課題など) 30%、定期試験70%		
履修条件	学修規定による。演習、発言を含むため、毎回の授業に真摯かつ積極的に臨むこと。		
教科書	Miracle on 34th Street (開文社)		
参考書	なし。		

科目名	英語Ⅱ [食栄 (Aクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	白木 玲子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、所属する学科の専門教育に関連した英文に取り組むことを通じて、より高度な英文読解力および英文聴解力を養成することである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに、ポキャブラリーの拡充をはかり、総合的な英語力の向上を目指す。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、リスニング問題に取り組むことで聴解力を磨き、会話演習を通して実践的な表現力を学ぶ。その後、テーマに即した英文エッセイの朗読を聞く。リーディング演習では、英語の構造および重要な箇所、難解な箇所を理解し、文脈に合った正しい解釈ができるような読解力を身につける。内容把握に関する練習問題に取り組む。重要な語句について学習し、専門的な語彙をも強化する。		
授業計画	① Introduction : 授業説明、Warm-up ② Unit 1 : Fuel Your Body and Mind ③ Unit 2 : What Helps Keep a Doctor Away? ④ Unit 3 : Laughing Will Save You from Going Crazy ⑤ Unit 4 : The French Paradox ⑥ Unit 5 : American's Interest in Sushi ⑦ Unit 6 : Don't Stay Away from Natto ⑧ 中間試験 ⑨ Unit 7 : Acute Alcohol Intoxication Can Kill You ⑩ Unit 8 : Is Snoring a Bad Sign? ⑪ Unit 9 : Getting a Good Night's Sleep is a Challenge ⑫ Unit 10 : Chocolate and its Magical Power ⑬ Unit 11 : The Health Risks of Eating Processed Food ⑭ Unit 12 : Is Genetically Modified Food Safe Enough? ⑮ Unit 13 : Environmental Health Threats ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握し、練習問題を解いてくる。 【復習】試験対策として、前回の授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点 (出席状況、授業態度、小テスト、課題など) 30%、中間試験30%、定期試験40%		
履修条件	学修規定による。演習、発言を含むため、毎回の授業に真摯かつ積極的に臨むこと。		
教科書	Better Health for Every Day (金星堂)		
参考書	なし。		

科目名	英語Ⅱ [食栄 (Bクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	柳楽 有里	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>目的：映像とスクリプトを用いた活動を通して実用的な英語表現を学習し総合的な英語力を培う。</p> <p>到達目標1：各シーンの語彙と定型表現を学習しテキストの練習問題を解くことができる。</p> <p>到達目標2：各シーンで用いられる重要な文法事項や文構造を理解し応用問題を解くことができる。</p> <p>到達目標3：学習した語彙や様々な表現を用いて自分の意見を述べるができる。</p>		
授業概要	<p>視聴覚教材に用いられる語彙と様々な定型表現を学習し、さらに重要な文法事項を丁寧に確認することによって英語の基礎力を充実させる。さらに各シーンのリスニングとその内容に関連するスピーキングの練習を行い、インプットとアウトプットの両方を強化していく。多様な英語表現の理解するための基礎を築き、日常生活やビジネスシーンで用いられる英語に柔軟に対応する英語力を習得することを最終的な目的としている。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② Unit 1 Job Interview ③ Unit 2 First Day on the Job ④ Unit 3 Hurricane on the Weekend ⑤ Unit 4 Andy's Makeover ⑥ Unit 5 Andy Meets Christian ⑦ Unit 6 Miranda's Request ⑧ Review (Unit 1 - Unit 6) ⑨ Unit 7 Nate's Birthday ⑩ Unit 8 Andy's Decision ⑪ Unit 9 Breakup with Nate ⑫ Unit 10 The Dream Job ⑬ Unit 11 Announcement at the Party ⑭ Unit 12 Andy's Final Choice ⑮ Review (Unit 7 - Unit 12) ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】次回の授業範囲を予習し、単語の意味をすべて調べておくこと。</p> <p>【復習】次回の小テストに備えて既習の範囲を復習しておくこと。</p>		
評価方法	復習テスト30%、小テスト10%、定期試験60%として総合的に評価する。		
履修条件	なし。		
教科書	『ブラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語 ISBN：9784881987124		
参考書	なし。		

科目名	英語Ⅱ [生デ (Aクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>今や国際語となっている英語について、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図るとともに、外国の文化や社会に対する認識を深めることを目標とする。英語の基礎的な語法・文法を「理解」しその応用力を高める。TOEIC・TOEFL・英検等の資格試験の得点向上を目的とする。</p>		
授業概要	<p>クラシック映画『ローマの休日』を使用した英語教材を使用することで、学習の動機付けを高め、学生の皆さんの積極的な学習態度を育てる。日常に使える会話表現を取り上げたリスニング問題や、オーセンティックなリーディング演習、ペアで行うスピーキング練習など様々なエクササイズから、「読む・書く・聴く・話す」の4技能を向上を図る。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② Unit 1 She Gets a Royal Welcome ③ Unit 2 Where Do You Live? ④ Unit 3 Is This the Elevator? ⑤ Unit 4 Is This the Princess? ⑥ Unit 5 So I've Spent the Night Here with You? ⑦ Unit 6 It's Just What I wanted ⑧ Unit 7 Today's Gonna Be a Holiday ⑨ Unit 8 "The Mouth of Truth" ⑩ Unit 9 Hit Him Again, Smitty! ⑪ Unit 10 I Don't Know How to Say Goodbe ⑫ Unit 11 Is That a Shot, Joe? ⑬ Unit 12 By All Means, Rome ⑭ 表現 (例、行き先を訪ねる表現、電話で使われる表現など) ⑮ まとめ ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】分からない所を明確にし質問ができるようにする。課題を解いておく。</p> <p>【復習】質問などで理解したことをまとめ、予習した課題を自己添削する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上の過程を毎回レポートで提出すること。 		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質問など)・レポート・小テスト)40%、定期試験60%		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『Roman Holiday: Shining and Natural English』 / 著：濱田真由美・穂本浩美 / 出版：マクミラン ランゲージハウス		
参考書	授業中に適時指示する。		

科目名	英語Ⅱ [生デ (Bクラス)] English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	古東 佐知子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	英語の総合的な力をつけることを目的とする。映像を使用した教科書を使用することで、実際に英語が使われている状況も理解しながら、使える英語の向上を目指す。学生それぞれが、個々の力に合わせ、楽しみながら英語を勉強することを目標にする。自主的に英語の勉強に取り組むことで、英語力を向上させることが目標である。		
授業概要	ナショナルジオグラフィックの映像を使ったアクティビティを通して、実際に使える英語力の向上を目指す。旅行で使えるシチュエーション別のスピーキング力や、手紙など英語を使ったライティング力を向上させながら、英語力の向上はもちろんのこと、世界の様々な文化に目を向けられるようにする。また、少々難解なTOEICの問題や、グループワークを通じて英語のリーディング問題に挑戦し、発展的な英語力を身につける。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② Chapter 1 Spain ③ Chapter 2 China ④ Chapter 3 Peru ⑤ Chapter 4 Tokyo ⑥ Chapter 5 New York City ⑦ Chapter 6 Antarctica ⑧ 中間テスト & Review ⑨ Chapter 7 India ⑩ Chapter 8 New Zealanda ⑪ Chapter 9 Africa ⑫ Chapter 10 Cambodia ⑬ Chapter 11 Egypt ⑭ Chapter 12 Italy ⑮ Chapter 13 mars ⑯ 期末試験 		
予復習等	【予習】授業で扱う箇所の単語を調べておく。 【復習】分からなかった箇所を理解できるようにする。単語テストに備えて勉強する。		
評価方法	期末試験50% 中間テスト30% 課題・発表20%		
履修条件	なし。		
教科書	Carmella Lieske, Globe Trotters —Practical English with Video, センゲージ ラーニング		
参考書	英語の辞書を持参すること。その他は授業中に指示する。		

科目名	英語Ⅲ [国文] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科 (2年前期)	科目区分	演習
担当者	白木 玲子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	リーディングでは、語彙力の増加と共に、逐語的に訳すのではなく、ポイントを見極めながら内容を把握できる読解能力を身につける。練習問題を加えることで文法事項も再確認する。また、様々な視聴覚教材を通して自然な口語表現にも触れる。最終的には、英語とイギリスに対する鋭敏な感覚と知識の向上を目指す。		
授業概要	現代のイギリス社会や文化、例えばスポーツや王室、ハリーポッターなど多岐にわたる話題を取り上げ、それらに関する英文エッセイの読解と練習問題に取り組む。具体的には、語彙力および文法力を増強し、英語を英語として捉え、文脈に添った正しい解釈ができるようになることを目指す。また、時に用いる視聴覚教材を通して多彩な英語表現に触れ、実践的な聴解力および表現力を学ぶ。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① Introduction: 授業説明、Warm-up ② Reading Exercises ③ Unit 1: David Beckham (1) ④ Unit 1: David Beckham (2) ⑤ Unit 2: The British Royal Family (1) ⑥ Unit 2: The British Royal Family (2) ⑦ Review 1 ⑧ Unit 3: Food and Drink (1) ⑨ Unit 3: Food and Drink (2) ⑩ Unit 4: J. K. Rowling (1) ⑪ Unit 4: J. K. Rowling (2) ⑫ Review 2 ⑬ Unit 5: London Theatre (1) ⑭ Unit 5: London Theatre (2) ⑮ Review 3 ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】事前に渡す資料を読み込み、内容を把握し、練習問題を解いてくる。 【復習】試験対策として、前回の授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点 (出席状況、授業態度、小テスト、課題など) 50%、定期試験50%		
履修条件	学修規定による。演習、発言を含むため、毎回の授業に真摯かつ積極的に臨むこと。		
教科書	適宜プリントおよび資料を配布。		
参考書	なし。		

科目名	英語Ⅲ [食栄・生デ] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	食栄・生デ (2年前期)	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	The aim of this class is for students to learn English that is useful and necessary for a variety of situations when travelling and studying overseas. By increasing their knowledge of vocabulary, students increase their ability to communicate in a variety of situations. Students will also learn and practice sentence-length expressions which will help them speak more fluently and naturally.		
授業概要	Emphasis will be put on increasing students' English vocabulary through in-class activities and conversation. There will be a vocabulary quiz at the end of each unit. Other classroom activities include listening and reading practice, and dialogue practice in pairs. Because this is mainly a conversation course, students who take this course need to be interested in using English for spoken communication.		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① Course introduction / Unit 1: Airport check-in ② Unit 1: Airline baggage rules / Vocabulary review ③ Unit 1 Vocabulary quiz / Unit 2: Jet lag ④ Unit 2: Time zones / Vocabulary review ⑤ Unit 2 Vocabulary quiz / Unit 3: Homestays ⑥ Unit 3: Host family rules / Vocabulary review ⑦ Unit 3 Vocabulary quiz / Unit 4: Culture shock ⑧ Unit 4: Making adjustments / Vocabulary review ⑨ Unit 4 Vocabulary quiz / Unit 5: Dormitory life ⑩ Unit 5: Suggestions and requests / Vocabulary review ⑪ Unit 5 Vocabulary quiz / Unit 6: Making friends ⑫ Unit 6: Activities overseas / Vocabulary review ⑬ Unit 6 Vocabulary quiz / Unit 9: Ordering food ⑭ Unit 9: Restaurant manners / Vocabulary review ⑮ Unit 9 Vocabulary quiz / Review ⑯ Exam 		
予復習等	<p>【予習】 Study the textbook before coming to class each week.</p> <p>【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.</p>		
評価方法	出席状況 30%、小テスト 40%、定期試験 30%		
履修条件			
教科書	Communicate Abroad: Essential English for Travel and Study. Simon Cookson & Chihiro Tajima, Cengage. 2016		
参考書			

科目名	英語Ⅳ [国文・食栄・生デ] English IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国文・食栄・生デ (2年後期)	科目区分	演習
担当者	柳楽 有里	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>目的：文学作品の講読を通して読解力の向上を目指す。</p> <p>到達目標 1：語彙やイディオムの意味を学習し自然な和訳ができる。</p> <p>到達目標 2：重要な文法事項や文構造や前後のつながりを理解し全体の要旨が説明できる。</p> <p>到達目標 3：作品の登場人物たちの根底にある思想を理解できる。</p>		
授業概要	19世紀から20世紀を代表する文学作品を扱ったテキストを講読していく。難解な文学作品を少しずつ丁寧に読む活動を通して単語やイディオムを単に暗記するだけでなく、作品の根底に流れている登場人物の考えや思想を読み解く力を培う。授業では和訳作業に重点を置くが、物語のプロットや豊かな英語表現に触れることで文学作品の魅力を味わうことも目的の一つである。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② Unit 1 O' Henry, "After Twenty Years" (I) ③ Unit 2 O' Henry, "After Twenty Years" (II) ④ Unit 3 Ralph Waldo Emerson, Nature ⑤ Unit 4 Mark Twain, Adventures of Huckleberry Finn (I) ⑥ Unit 5 Mark Twain, Adventures of Huckleberry Finn (II) ⑦ Unit 6 Edgar Allan Poe, "The Black Cat" ⑧ Unit 7 Louisa May Alcott, Little Women ⑨ Unit 8 Henry James, The Daisy Miller ⑩ Unit 9 Charlotte Gilman, "The Yellow Wallpaper" ⑪ Unit 10 Kate Chopin, The Awakening ⑫ Unit 11 Sherwood Anderson, "Paper Pills" ⑬ Unit 12 F. Scot Fitzgerald, The Great Gatsby (I) ⑭ Unit 13 F. Scot Fitzgerald, The Great Gatsby (II) ⑮ Unit 14 Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲を単語を調べ、全文和訳しておくこと。</p> <p>【復習】 小テストを行うので学習した単語と定型表現を復習しておくこと。</p>		
評価方法	小テスト40%、定期試験60%として総合的に評価する。		
履修条件	なし。		
教科書	『アメリカ文学から英語を学ぼう』 ISBN：978-4-269-03012-1		
参考書	なし。		

科目名	フランス語Ⅰ French I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	英語英文学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	八代 恵子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	フランス語の発音と文字の読み方を身につけ、辞書を使って簡単な文章が読め、やさしい会話ができることを目指します。また、フランスの文化についての理解も深めます。中学、高校と最初の外国語である英語での学習経験を思い出さなくとも、母国語である日本語においても、言葉を明確に使いこなすことは相当の時間を要します。言葉の仕組みである文法は「時間節約のカギ」とみなし、第二の外国語フランス語に取り組んで欲しいと思います。		
授業概要	ゼロから学習をスタートする今期は、アルファベットの確認とその綴りと読みの関係を重点的に学びます。付属の音声教材を聞いたあと、この関係を意識して音読練習をします。英語でも重要な2大動詞を学びますが、英語より複雑なフランス語の動詞の現在形も確認します。文法が理解できたかどうか、テキストの文章を訳してもらったり、練習問題は履修者全員に随時板書してもらいます。言語と切り離せない文化の面では、フランス人なら誰もが知っている歌や、学習した表現などを確認できる映像（映画のシーン）なども紹介する予定です。「初めてなのに」でも、「初めて」の連続でしかない毎回の授業は一定のリズムで進むので、復習・予習は不可欠であり、毎回の出席の前提であると考えて下さい。		
授業計画	① オリエンテーション ② 0 アルファベ、教え方、いろいろな挨拶の表現 ③ 1-1 冠詞、名詞の性と数 ④ 1-2 主語の人称代名詞、動詞être ⑤ 1まとめ 定冠詞の縮約、演習1-1 ⑥ 1まとめ 表現（自己紹介）、演習1-2 ⑦ 2-1 動詞avoir、疑問文 ⑧ 2-2 否定文、人称代名詞の強勢形 ⑨ 2まとめ 形容詞、演習2-1 ⑩ 2まとめ 表現（身体、性格）、演習2-2 ⑪ 3-1 第1群規則動詞、指示形容詞 ⑫ 3-2 第2群規則動詞、所有形容詞 ⑬ 3まとめ 部分冠詞、疑問詞、演習3-1 ⑭ 3まとめ 表現（問い、お礼）、演習3-2 ⑮ 4-1 不規則動詞aller、venir、faire、非人称主語 ⑯ 定期試験		
予復習等	前回の授業で学習した教科書の該当ページを習得できているか確認し、次回の授業範囲に目を通し辞書を使って予め調べておくこと。		
評価方法	出席状況及び授業態度30%、小テスト20%、定期試験50%		
履修条件	なし。		
教科書	「アミカルマン（プリュス）」 澤田直・黒川学・リリアンヌ・ラタンジオ 駿河台出版社		
参考書	仏和辞書（古くてもよいが、例文の少ないもの、根気のない人ほど電子辞書は避ける）		

科目名	フランス語Ⅱ French II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	八代 恵子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	英語と同じアルファベットであるからこそ、フランス語の綴り字の読み方は英語に慣れている学習者には最後まで苦手意識のもとですが、その規則性は楽譜のように明確です。多くの学生には最後の学習機会なので、将来の自律学習のためにも一人でフランス語読みができる、また英語と同様の基本文法項目にも順次目を通すことを目標とします。自分が経験したことや起こった出来事を伝えるための第一の過去形も学習したいと考えます。状況表現では、この言語独特のリズム・イントネーションの習得にも心がけます。		
授業概要	週1回の授業のためなかなか大変ですが、1年間の学習のゴールとして複合過去という過去時制の学習を目指します。未来形はフランス語Ⅲでの学習となりますが、近い未来、近い過去は動詞の現在形で表現でき、このような初級文法も確認します。文化的な点では、前期と同様よく知られている歌や、季節にまつわる詩や映像を通して、より理解を深めたいと考えます。また、よい環境で録音された音声教材は実際の交流場面での発話とは違うので、身近な映画といった教材を利用し、その発話のスピードや不明瞭さにも慣れる機会をもちたいと考えます。		
授業計画	① フランス語Ⅰの復習 ② 4-2 不規則動詞prendre、命令法 ③ 4のまとめ 近い未来、近い過去、演習4-1 ④ 4のまとめ 表現（時間、場所）、演習4-2 ⑤ 5-1 人称代名詞（直接目的補語）、比較級 ⑥ 5-2 人称代名詞（間接目的補語） ⑦ 5のまとめ 最上級、演習5-1 ⑧ 5のまとめ 表現（意見）、演習5-2 ⑨ 6-1 代名動詞（再帰、受動、相互、本質） ⑩ 6-2 不規則動詞（可能、欲求、義務の表現） ⑪ 6のまとめ 疑問形容詞、演習6-1 ⑫ 6のまとめ 表現（勧誘、許可）、6-2 ⑬ 7-1 複合過去（助動詞avoir） ⑭ 7-2 複合過去（助動詞être） ⑮ 7のまとめ いろいろな否定表現 ⑯ 定期試験		
予復習等	前回の授業で学習した教科書の該当ページを習得できているか確認し、次回の授業範囲に目を通し辞書を使って予め調べておくこと。		
評価方法	出席状況及び授業態度30%、小テスト20%、定期試験50%		
履修条件	フランス語Ⅰの履修。		
教科書	「アミカルマン（プリュス）」 澤田直・黒川学・リリアンヌ・ラタンジオ 駿河台出版社		
参考書	仏和辞書（古くてもよいが、例文の少ないもの、根気のない人ほど電子辞書は避ける）		

科目名	フランス語Ⅲ French III	単位数	1
	必選区分	選択	
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	八代 恵子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	フランス語およびフランス文化についての理解を深めつつ、「話す力」「書く力」という側面を強化したいと思います。1年目に基本的な文法事項を習得し「読む力」「聞く力」を身につけている学習者の総合的な語学力向上を目指します。2年目は学習者・教員ともに余裕のある学習空間が得られるので、1年で取り組めなかった過去や、自分の予定や夢を伝えるのに使う未来といった時制をとおして、より豊かなコミュニケーション力につなげたいと考えます。		
授業概要	フランス語ⅡⅡのテキストを引き続き使用し終了します。1年目と同様、テキストの文章をしっかりと聞いたあと、綴りと発音の関係を意識しながら文章を読みます。文法を理解したら板書してもらって練習問題で再確認します。1年目はさまざまな（活用）動詞の現在の時制にとどまっていますが、複合過去のほかに過去の状況やそれ以前の出来事を伝えることができる半過去や大過去も学習します。ここで動詞の単純形、複合形にも触れます。この点を理解できると中級レベルの「一現在」「一過去」という文法表現に不安や抵抗がなくなると考えます。文化面では、日本でも愛されている歌や、フランス人の特徴などが垣間見られる映画のシーンなどを紹介します。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーションおよび1年次の復習 ② 9課 複合過去（助動詞avoir） ③ 9課 複合過去（助動詞être） ④ 9課 代名動詞の複合過去（助動詞être） ⑤ 9課 直説法半過去 ⑥ 9課 直説法半過去と複合過去の違い ⑦ 9課 受動態 ⑧ 9課 演習とまとめ ⑨ 10課 単純未来、近接未来との違い ⑩ 10課 関係代名詞 ⑪ 10課 ジェロンディフ ⑫ 10課 演習とまとめ ⑬ 9課・10課の補足 直説法大過去 ⑭ 9課・10課の補足 前未来 ⑮ フランス語文法のまとめ及び質疑応答 ⑯ 定期試験 		
予復習等	前回の授業で学習した教科書の該当ページを習得できているか確認し、次回の授業範囲に目を通し辞書を使って予め調べておくこと。		
評価方法	出席状況及び授業態度30%、小テスト20%、定期試験50%		
履修条件	「フランス語Ⅰ、Ⅱ」の単位を修得していること。		
教科書	「世界遺産で学ぶフランス語」 大津俊克・瀧川広子・藤井宏尚 朝日出版社		
参考書	仏和辞書（古くてもよいが、例文の少ないもの、根気のない人ほど電子辞書は避ける）		

科目名	フランス語Ⅳ French IV	単位数	1
	必選区分	選択	
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	八代 恵子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	フランス語文法学習を接続法まで終えることで、辞書を使いフランス語からなる文書から必要な情報の取捨選択や収集できるようになることを目指します。またフランス語Ⅳまで達して漸く、その響きの心地よさゆえ気づけなかったこの言語の論理的な側面も実感することになります。「欧米文化」に括られない「フランス文化」の特質、ひいては私たちの文化的視点をも確認します。この言語学習をきっかけとした多様性への気づきが、社会人としての視野をより広げまた生涯学習への動機となるものと考えます。		
授業概要	週1回の2年間の学習でフランス語の体系を見てきましたが、その締めくくりとしてテキストにない条件法、接続法といった文法項目をプリント教材などで確認し、フランス語文法学習を一通り終えます。この成果が学習者の将来での自律学習に繋がるものとなるはずで「文化トピック」にも再び目を通し、この言語の背景であるフランス文化やその風土への理解を深めます。さらに時間の許す限り、プリント教材などでフランス語文化圏における生活者のための実用的なフランス語に触れたいと思います。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① フランス語Ⅲの復習 ② 補遺1 条件法現在 ③ 補遺2 条件法過去 ④ 補遺3 接続法現在 ⑤ 補遺4 接続法過去 ⑥ 教科書文化トピック（1課～3課） ⑦ 教科書文化トピック（4課～6課） ⑧ 教科書文化トピック（7課～10課） ⑨ プリント教材（読解1 検定問題など） ⑩ プリント教材（聞き取り） ⑪ フランス語作文・発話練習 ⑫ プリント教材（読解1 検定問題、雑誌など） ⑬ プリント教材（読解2 バンドデシネ、ネット記事など） ⑭ 視聴覚教材（シャンソン、映画、TVニュースなど） ⑮ まとめ ⑯ 定期試験 		
予復習等	前回の授業で学習した教科書の該当ページを習得できているか確認し、次回の授業範囲に目を通し辞書を使って予め調べておくこと。		
評価方法	出席状況及び授業態度30%、小テスト20%、定期試験50%		
履修条件	「フランス語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の単位を修得していること。		
教科書	「世界遺産で学ぶフランス語」 大津俊克・瀧川広子・藤井宏尚 朝日出版社		
参考書	仏和辞書（古くてもよいが、例文の少ないもの、根気のない人ほど電子辞書は避ける）		

科目名	教養演習 [英文] Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	英語英文学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	英語英文学科各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>教養演習では、英語英文学科で学ぶ学問分野についての基本的な知識を得ることを目的とする。本演習を通じて、英語学、英語教育学、英米文学などの学問分野が何を対象にして、どんなことを明らかにしていくものなのかを理解し、自らの専門分野を考える契機とする。各専門分野についての入門講義を通じて、研究の方法や論文作成の作法など、大学で学ぶための基礎教養を身につけていく。また、学外研修として岐阜市内の史跡、文化施設、町並み等の見学、鶴飼見学を実施し、2年間通して学ぶ地である岐阜市について知ることも目標とする。</p>		
授業概要	<p>各授業では担当教員がそれぞれの専門分野、英語学習法についての入門講義を行う。受講者はそれぞれの教員の講義を受け、提示された課題を授業内外で行うことが求められる。また、6月上旬に実施予定の岐阜市内、鶴飼見学についての計画、オリエンテーションを数回行う。これらの学びと活動を通じて、物事を調べる力、記録する力、伝える力など、短期大学の学生としての学びに必要な事柄を身につけていく。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス・達人の英語学習法 (1) ② 達人の英語学習法 (2) ③ 英語学の諸分野の紹介 ④ 伝統文法・生成文法・英語史 ⑤ 市内・鶴飼見学オリエンテーション (1) ・イギリス文学研究入門 (1) ⑥ 市内・鶴飼見学オリエンテーション (2) ・イギリス文学研究入門 (2) ⑦ Independent English Study ⑧ Group Presentations ⑨ 岐阜市内見学 ⑩ 鶴飼見学 ⑪ アメリカ文学研究入門 (1) ⑫ アメリカ文学研究入門 (2) ⑬ 学外研修レポートの作成について ⑭ 学外研修レポートの作成・提出 ⑮ まとめ 		
予復習等	<p>【予習】 各回の授業で指示する。 【復習】 各回の授業で指示する。</p>		
評価方法	各担当教員 (5名) の評価 (20%) の合計点 (100点満点) によって成績をつける。		
履修条件			
教科書	各教員が資料を配布する。		
参考書	各回の授業で随時提示する。		

科目名	教養演習 [国文] Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科 (1年全期)	科目区分	演習
担当者	国際文化学科各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>10人程度のゼミ形式で、文章言語表現・レポート作成・文献検索・口頭発表の仕方など、学習活動に不可欠な基本訓練を行う。更に、今後の就職活動の準備の仕方などについても、指導を行う。到達目標としては、大学で学ぶ上での基本的な教養と心構えを身につけることである。</p>		
授業概要	<p>ゼミ形式で、大学で学習する上での基本的な教養 (文章の読解・要約力、文献検索の仕方、レポート・論文の作成方法、就職活動の仕方等) を学ぶ。各担当教員は、授業だけでなく、受け持つ学生のアドバイザーとなり、2年間を通して、勉学、生活、就職上の相談にのる。また、各担当教員が設定した各オフィスアワーには、優先的に相談に応じる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 大学及び大学生とは (1) ② 大学及び大学生とは (2) ③ 本学の施設を有効利用する ④ 文章の読解力、要約力を磨く (1) ⑤ 文章の読解力、要約力を磨く (2) ⑥ 文献検索、情報検索の方法を身につける (1) ⑦ 文献検索、情報検索の方法を身につける (2) ⑧ レポート・論文を作成する (1) ⑨ レポート・論文を作成する (2) ⑩ レポート・論文を作成する (3) ⑪ レポート・論文を発表する (1) ⑫ レポート・論文を発表する (2) ⑬ 情報の伝達力を磨く (1) ⑭ 情報の伝達力を磨く (2) ⑮ 職業人に向けての心構え (1) ⑯ 職業人に向けての心構え (2) 		
予復習等	<p>【予習】 予習の内容については各担当教員が授業の中で提示する。 【復習】 毎回各担当教員が提示する内容について復習すること。</p>		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	なし。		
教科書	各担当教員が授業のなかで提示する。		
参考書	各担当教員が授業のなかで提示する。		

科目名	教養演習 [食栄] Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	食物栄養学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	食物栄養学科各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>教養演習を通して、大学における学びの技法を修得する。また、少人数のグループ学習の中で、将来、栄養士を目指して、「大学で何を学ぶべきか?」「社会でどのように役立ちたいか?」、「そのための必要な学び・スキルとは何か?」について、自ら考え、目標が立てられるようになる。すなわち、高校生までの受け身の学修姿勢から自発的な学修姿勢へと変換する。</p>		
授業概要	<p>大学生として身につけるべき基礎的技能を習得する。具体的には、ノートの取り方、講義の受け方、情報収集(文献・資料の検索方法)、スライドを使ったプレゼンテーションの基礎、レポートの作成方法などを10名程度のグループ学習の中で学ぶ。また、グループワークの中で、コミュニケーション能力や総合的な判断力の養成を行う。食物栄養学科では、特に「食」を学ぶ意義や「食」に係わる者の倫理に重点を置いた取り上げ方をする。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 学生の学習技術：ノートの取り方、講義の受け方 ③ 学生の学習技術：予習・復習、図書館の使い方 ④ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(1) ⑤ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(2) ⑥ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(3) ⑦ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(4) ⑧ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(5) ⑨ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(6) ⑩ 演習Ⅰ：口頭発表 ⑪ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(1) ⑫ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(2) ⑬ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(3) ⑭ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(4) ⑮ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(5) ⑯ レポート・論文提出 		
予復習等	<p>【予習】テキストの該当部分を読んでおく。 【復習】配布資料がある場合、再読し、理解する。</p>		
評価方法	出席状況25%、授業態度25%、発表25%、レポート・論文など提出物25%		
履修条件	なし。		
教科書	『栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』／著：西川真理子／出版：化学同人		
参考書	各担当教員がテーマに応じて適宜紹介する。		

科目名	教養演習 [生デ] Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>大学での学習・生活は、高校までのそれとは大きく異なる。勉学は自発的にするものであり、生活面では権利と義務が伴う。本講義では、大学生活の出だしを自信とやる気を持ってスムーズに進められるよう、大学生としての基本姿勢・自ら学ぶ学習技術を会得することを目的とする。まず大学とは何かを理解するとともに本学の設立趣旨・本学科の教育目標と本学施設の活用方法を学ぶ。次いで、大学生の学習技術として、ノートをとる力・読む力・調べる力・まとめる力・伝える力などを習得することを目標とする。</p>		
授業概要	<p>テキストに添って、「講義ノートをとる力」、「テキストを読む力」、「文献を調べる力」、「レポートを書く力」、「レポートをまとめる力」の順に進めていく。大学の講義においては、レポート課題が多く出されることから、「レポートを書く力」を習得することが特に重要となる。また、その事前の準備として文献調査が必ず必要となり、図書館の利用方法も理解し十分に活用してもらいたい。なお、各講義においては、パワーポイントを用いて、簡潔に理解できるよう工夫している。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 大学とは何か・本学の設立趣旨と本学科の教育目標 ② 講義ノートをとる力の習得 ③ テキストを読む力の習得 ④ 文献を調べる力の習得 ⑤ レポートを書く力の習得 ⑥ レポートをまとめる力の習得 ⑦ 成果を伝える力の習得 ⑧ 学外研修 ⑨ 学外研修 ⑩ 学外研修 ⑪ 学外研修 ⑫ 特別講義(1回目) ⑬ 特別講義(2回目) ⑭ 卒業研究中間発表会 ⑮ 卒業研究中間発表会 		
予復習等	<p>【予習】教科書をあらかじめ見ておくこと。 【復習】学んだことを他の講義等で実行すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度40%、レポート等提出物60%		
履修条件	学外研修参加(レポート提出)、特別講義参加、卒業研究中間発表会参加。		
教科書	くろしお出版 学習技術研究会編著 「知へのステップ 第4版」		
参考書	なし。		